

SAH×新年 前南生よ、刮目せよ

— 自分・集団・社会に対して「目」を向けよ —

「刮目（かつもく）」とは、「目をこすって、よく見る、注意して見る」という意味だ。“なんとなく見る、なんとなく知る、なんとなく流される”、それをやめて、自分や社会に対して、目を開いていきなさいというのが2026年のSAHジャーナル最初のメッセージである。「前南生よ、刮目（かつもく）せよ。」（編集 教頭）

① まず「自分自身」に刮目せよ

進路とは「職業選択」のことだけではない。自分自身を理解し、社会の中で、自分がどこに立つかを選ぶことだ。そのために必要なのは、まずは「自己分析」だ。例えば、「指示される側か、考えて動く側か」「リーダータイプか縁の下の方持ちタイプか」「コミュニケーション力は？」「責任を負う場面や嫌な苦手なことから逃げるか逃げないか」など…。自分自身のタイプを知っていれば、社会でどのような役割を担えるのかがわかる。自身の短所が「働くこと」「社会に適合すること」の足かせになっていると理解できれば、どのように対策していけばいいかを次に考え行動していけばいい。

② 集団に刮目せよー クラス・部活・友達関係は「社会の予行演習」だー

学校という場所は、「社会に出るための訓練の場」だ。ルールを守ることや礼儀だけでなく、友達との付き合い、部活動の仲間、クラスの人間関係。それは単なる「学校生活」ではない。「社会に出るための訓練の場」である。

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| ・意見の違う人とどう向き合うか | ・不満があるとき、黙るのか、伝えるのか |
| ・空気が間違っているとき、どう行動するのか | ・自分の考えを通したいときにどうすれば納得してもらえるか |

会社でも、大学でも、地域でも、人は必ず「集団」の中で生きる。10人いれば、10個の考え方、10の育ってきた環境がある。それを知り、その練習と思って人との距離の取り方、相手がどう考えているのかを考える、こういう言葉を使ったりこういう態度を取ったりすると相手を傷つける、自分が逆に孤立してしまうなど「社会で生きる」ために学校という空間で色々試し、訓練していくのだ。自分、そして集団に刮目せよ。

③ 世の中に刮目せよー 出来事を「他人ごと」で終わらせるなー

ニュースやSNSで流れてくる事件、問題、社会課題。君たちは、いずれその社会に飛び込んでいくことになる。これから生きていく「社会」「世の中」「世界」に刮目せよ。社会の課題は、自分や自分の周りの仲間、家族に降りかかってくる問題だ。どのような世界になっていくのかに注目すること、世の中の課題や問題の解決に向けて、関わっていこうとすることが、ひいては自分のwellbeingにつながっていくわけだ。

★校長より★ SAHの指定校になって以来、「自分ごとにする」という言葉をよく聞くようになりました。学校でよく聞くのはもちろんですが、生活の中でもたびたび目にするようになりました。「自分ごとにする」ことが社会課題になっているということなのかもしれません。皆さんは社会のことを「自分ごと」として捉えられていますか？学校のことを「自分ごと」として考えられていますか？自分のことを「自分ごと」として判断できていますか？簡単なことではありません。それでも、考え続けていることが皆さん自身を成長させ、社会を良いものに変えていきます。（校長 原 拓史）